

電気技術オーラルヒストリー調査専門委員会(第II期)
(Oral History Committee on Electrical Engineering in Japan (Second Period))

設置趣意書

電気技術史技術委員会

1. 目的

電気技術史技術委員会では、1993 年以降、順次調査専門委員会を設置し、電気技術の各分野の専門家や電気学会名誉員を対象としてオーラルヒストリー活動を進めてきた。「電気技術オーラルヒストリー調査専門委員会(第II期)」では、前回調査専門委員会(平成24(2012)年4月～平成26(2014)年3月)に引き続き、電気学会名誉員を対象とし、聞き取り調査を実施する。調査の目的を以下に記す。

- 1) オーラルヒストリーを記録し、技術史研究の史料として活用する。
- 2) オーラルヒストリーにより先達の研究開発への取組みを見えるようにして、後進の若い研究開発者の研究開発上の指針や姿勢に好影響を与える。

2. 背景および内外機関における調査活動

- 1) 理工系におけるオーラルヒストリーは、研究開発関係者から聞き取り調査を行い、研究開発過程などに加え、論文などには記載しない内容、すなわち、関係者の心の交流や人間関係、研究開発秘話などを聞き取って記録に残し、技術史研究の一次史料とするものである。
- 2) 近年、オーラルヒストリーが技術史研究の手法として有力なものであることが認識され、国内外の多くの機関で聞き取り調査が実施されている。
- 3) 国内では、当電気技術史技術委員会の他にも、社団法人研究産業・産業技術振興協会、自動車技術会、映像情報メディア学会、応用物理学会、計測自動制御学会、情報処理学会、照明学会、電子情報通信学会など多くの学会・協会が取り組んでいる。

(注)映像情報メディア学会以降に記した学会は、当学会の主唱により設立されたオーラルヒストリー研究推進委員会(科研費終了とともに解散)のメンバー。

- 4) 海外では、教育機関、専門機関、企業、個人といった種々のレベルの聞き取り調査が実施されている。特にIEEE歴史センターの調査が有名で、調査記録はスミソニアン協会、IEEE歴史センター、チャールズ・バベッジ研究所等に保管され、また、最近ではウェブサイト”The Engineering and Technology History Wiki (ETHW)”でも公開されており、技術史研究に有効活用されている。

3. 調査検討事項

以下について調査検討・決定を行う。

- 1) 名誉員への聞き取り調査の実施
- 2) 聞き取り調査結果の整理と総括報告
- 3) 聞き取り調査の準備・実施要領の更新
- 4) 調査原資料(録音媒体、記録文書など)他の管理方法の検討

4. 予想される効果

- 1) 電気技術史研究の貴重な史料が得られ、技術史研究に活用できる。
- 2) 後進の若い研究開発者の研究開発上の指針や姿勢に好影響を与えられる。

5. 調査期間

平成 28 年(2016 年)4月～平成 31 年(2019 年)3月

6. 委員会の構成（職名別の50音順）

職名	氏名	(所属)	会員・非会員区分
委員長	山本 正純	(三菱電機)	会員
委員	荒川 文生	(地球技術研究所)	会員
同	石井 格	(国立科学博物館)	会員
同	市原 博	(獨協大学)	非会員
同	奥田 治雄	(湘南工科大学)	会員
同	白坂 行康	(日立製作所)	会員
同	高安 礼士	(全国科学博物館振興財団)	会員
同	七原 俊也	(東京工業大学)	会員
同	兵庫 明	(東京理科大学)	会員
同	松本 栄寿	(日本計量史学会)	会員
同	八代 健一郎	(千葉大学)	非会員
同	山本 真	(日本放送協会)	非会員
同	加藤 尚志	(JR東日本)	会員
幹事	木村 達也	(東芝)	非会員

上記の他に、各年度で聞き取り対象者に対応した委員若干名を追加することがある。

7. 活動予定

委員会:4回/年

8. 報告形態

電気学会誌の特集記事として報告する。(別紙の理由書を参照)

(参考) 聞き取り対象者は電気学会の名誉員(3～5人/年)。

以上